

【漁況】

[マアジ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、1965年の53万トンにピークに減少傾向となり、1980年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、1996年には33万トンに増加し、1998年までは30万トン台で推移しましたが、その後再び減少傾向に転じ、2019年は9万7千トンとなりました。

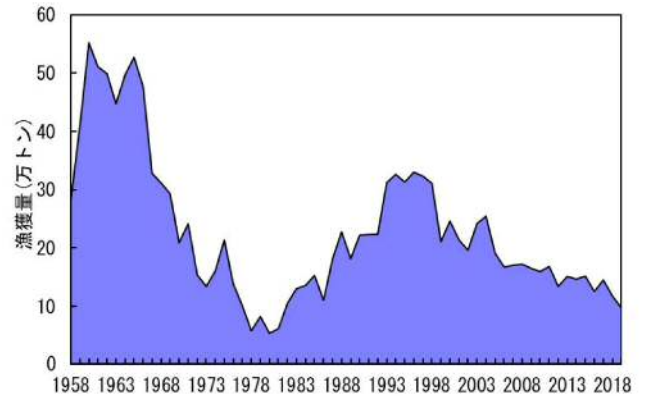


図 全国のマアジ漁獲量の推移

2. 県内の2021年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、7月に串木野沖でマアジ小（1歳魚：2020年生まれ）主体の漁場が形成されました。8月に串木野沖、長島でマアジ小（1歳魚：2020年生まれ）主体の漁場が形成されました。9月に五島下でマアジ小（1歳魚：2020年生まれ）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、漁場は形成されませんでした。

4港計のまき網では、期全体で256トンの水揚げで、前年の120%及び平年の33%でした。

3. 県内の2021年10～12月期の見とおし

漁獲主体：マアジ小、豆（0～1歳魚：2020～2021年生まれ）

来遊量：前年・平年を下回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期に漁獲の主体であった1歳魚に加え、今期は当歳魚も漁獲の主体となることが予測されます。漁獲量は8月以降低調に推移していることから、前年・平年を下回ると考えられます。

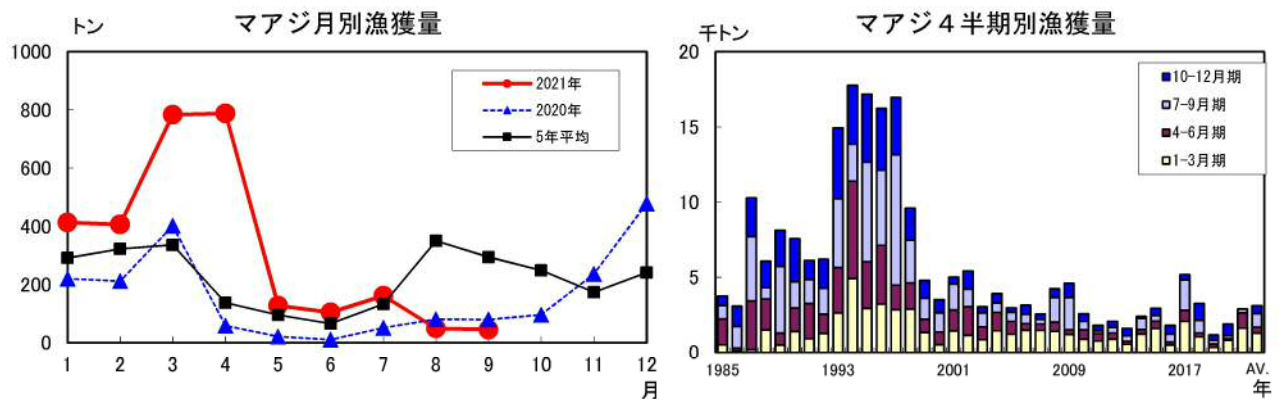


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2021年9月29日までの水揚量を使用

[サバ類]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、1978年の160万トン进行ピークに年々減少し、1991年には26万トンとなりました。

1993年から増加に転じ1997年には85万トンとなりましたが、2002年には28万トンまで減少しました。

2006年に65万トンまで増加したあと減少傾向となりましたが、2019年は45万トンとなりました。

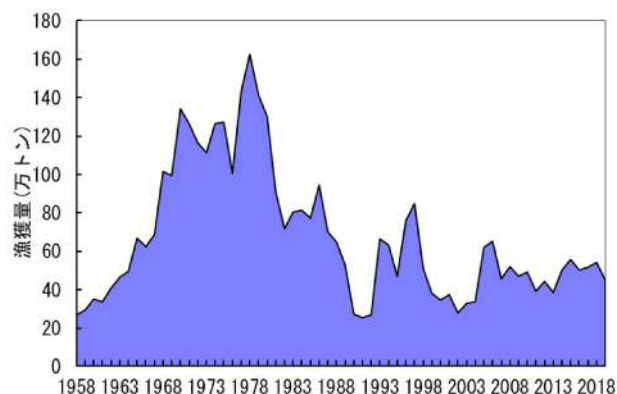


図 全国のサバ類漁獲量の推移 年

2. 県内の2021年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域では、7月に串木野沖、野間池沖でサバ類豆、小（1～2歳魚：2019～2020年生まれ）主体の漁場が形成されました。8月に天草西沖でサバ類豆（1歳魚：2020年生まれ）主体の漁場が形成されました。9月に縄瀬でサバ類小（1～2歳魚：2019～2020年生まれ）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、7月に湯瀬でゴマサバ中小、小（1～3歳魚：2018～2020年生まれ）主体の漁場が形成されました。8、9月に馬毛島でゴマサバ中小、小（1～3歳魚：2018～2020年生まれ）主体の漁場が形成されました。

4港計のまき網では、期全体で2,291トンの水揚げで、前年の143%及び平年の65%でした。

3. 県内の2021年10～12月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ中小、小（1～2歳魚：2019～2020年生まれ）

来遊量：前年並で平年を下回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期は、9月に漁獲の主体となったゴマサバの1～2歳魚が引き続き漁獲の主体となると予測されます。前期（7～9月）と今期（10～12月）の漁獲量には正の相関があり、回帰式をもとに予測すると前年並で平年を下回ると考えられます。

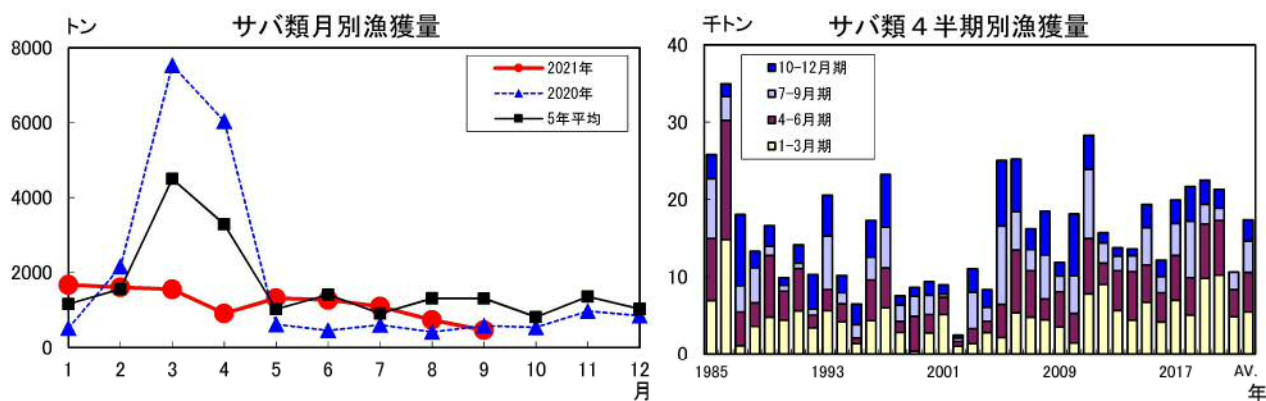


図 サバ類まき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2021年9月29日までの水揚量を使用

[マイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、1950年代から1960年代にかけての不漁期の後、1973年頃から増加の傾向が見られ、1988年には449万トンまで増加しました。

1989年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、2002～10年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、2011年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、2013年以降は20万トンを超える漁獲が続き、2019年には56万トンとなりました。

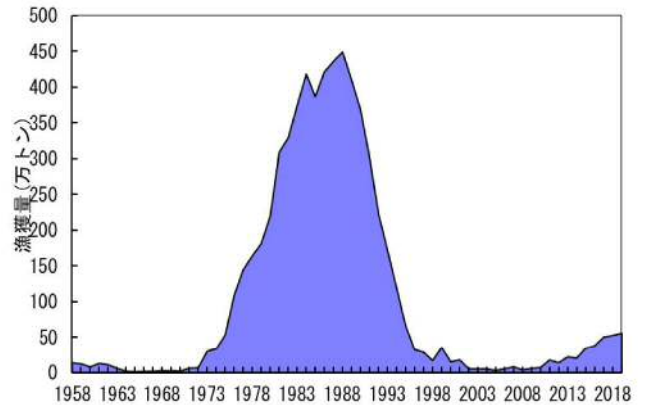


図 全国のマイワシ漁獲量の推移 年

2. 県内の2021年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、漁場は形成されませんでした。

薩南海域のまき網では、漁場は形成されませんでした。

4港計のまき網では、期を通じて小～中羽（0歳魚：2021年生まれ）主体に9.4トンの水揚げで前年の0.6%，平年の1.3%でした。

北薩海域の棒受網では、28.3トンの水揚げで前年の43%，平年の50%でした。

3. 県内の2021年10～12月期の見とおし

漁獲主体：中羽（0歳魚：2021年生まれ）

来遊量：前年・平年を下回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期に引き続き、今期も漁獲の主体となる中羽（0歳魚：2021年生まれ）は、前期に前年・平年を大きく下回って推移したことから前年・平年を下回ると考えられます。

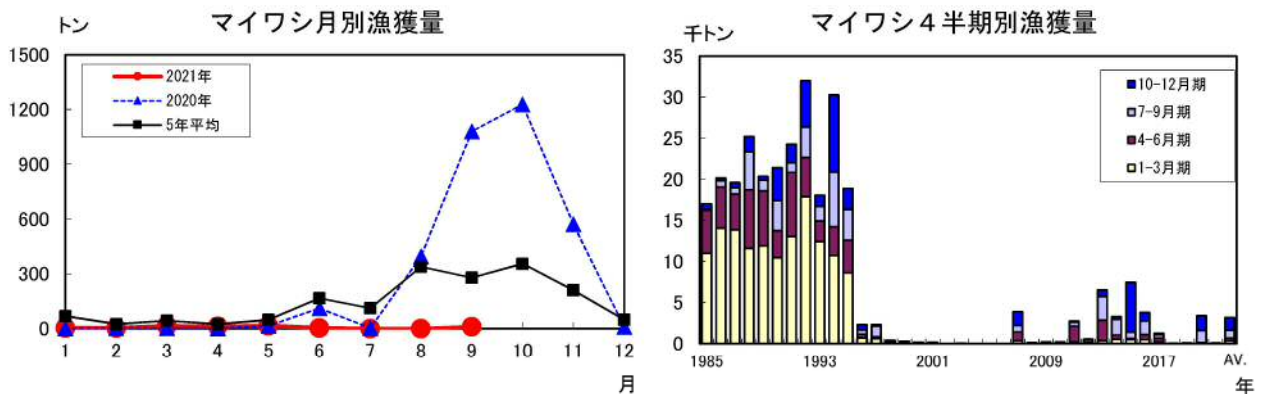


図 マイワシまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2021年9月29日までの水揚量を使用

[ウルメイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、1955年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、1994年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ2000年には2万4千トンまで減少しました。

2003年以降は再度増加傾向に転じ、2016年は9万8千トンで1958年以降では最高の漁獲量となりましたが、2019年は6万トンと大きく減少しました。

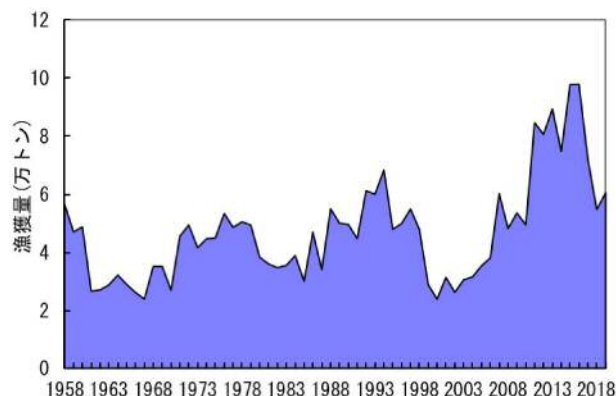


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

2. 県内の2021年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、9月に天草沖、縄瀬で漁場が形成されました。

薩南海域のまき網では、漁場は形成されませんでした。

4港計のまき網では、230トンの水揚げで、前年の28%、平年の16%でした。

北薩海域の棒受網では、小～中羽（0歳魚：2021年生まれ）主体に679トンの水揚げで、前年の96%、平年の65%でした。

3. 県内の2021年10～12月期の見とおし

漁獲主体：中羽（0歳魚：2021年生まれ）

来遊量：前年・平年を下回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期の漁獲の主体となる中羽（0歳魚：2021年生まれ）は、前期に前年、平年を下回って推移したことから、今期も前年、平年を下回ると考えられます。

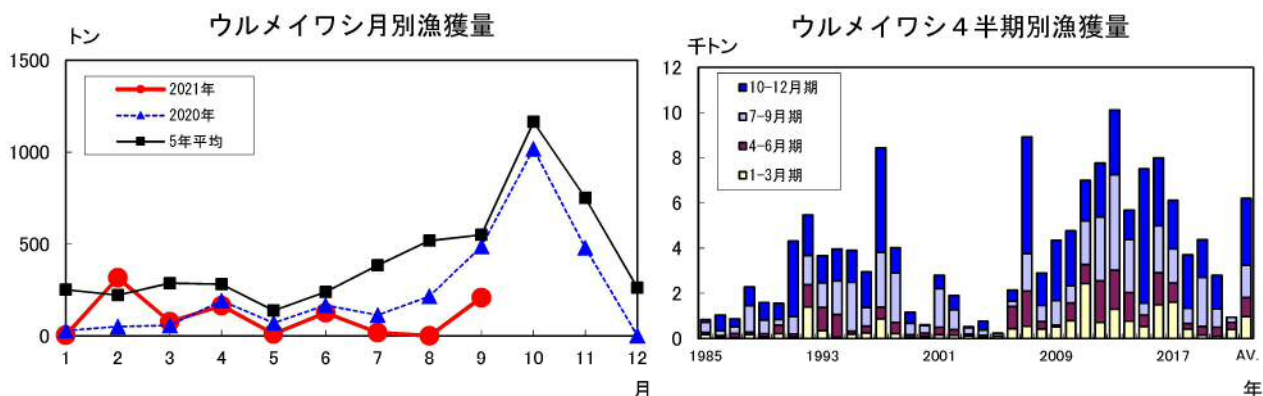


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値（AV），2021年9月29日までの水揚量を使用

[カタクチイワシ]

1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、1973年まで30万トン台で変動していましたが、1974年以降減少傾向となり1979年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、2003年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、2019年は13万トンとなりました。

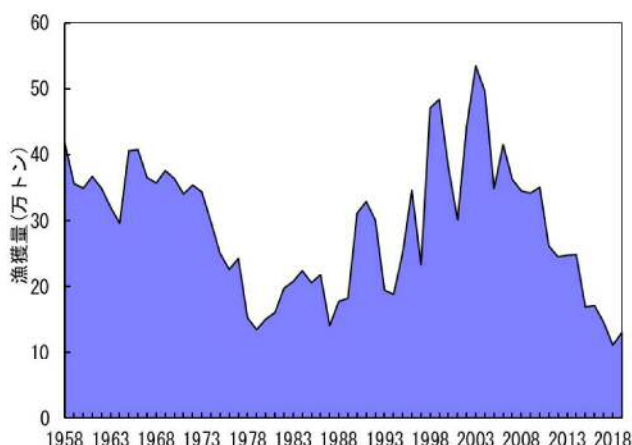


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

2. 県内の2021年7～9月期の漁況の経過

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

北薩海域のまき網では、7、8月に八代海、9月に八代海、天草沖に漁場が形成されました。薩南海域のまき網では、漁場は形成されませんでした。

4港計のまき網では、191トンの水揚げで、前年の25%、平年の24%でした。

北薩海域の棒受網では、小～中羽（0歳魚：2021年生まれ）主体に39トンの水揚げで、前年の18%、平年の26%でした。

3. 県内の2021年10～12月期の見とおし

漁獲主体：中～大羽（0歳魚：2021年生まれ）

来遊量：前年，平年を下回る

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

今期の漁獲の主体となる中～大羽（0歳魚：2021年生まれ）は、期を通じて低調に推移していることから、前年・平年を下回ると考えられます。

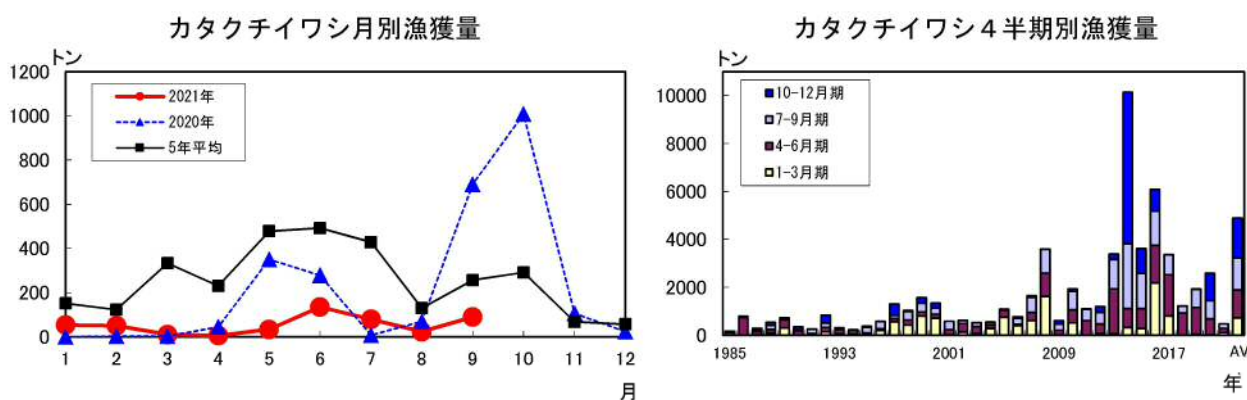


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値(AV)，2021年9月29日までの水揚量を使用

[イワシ類参考資料]

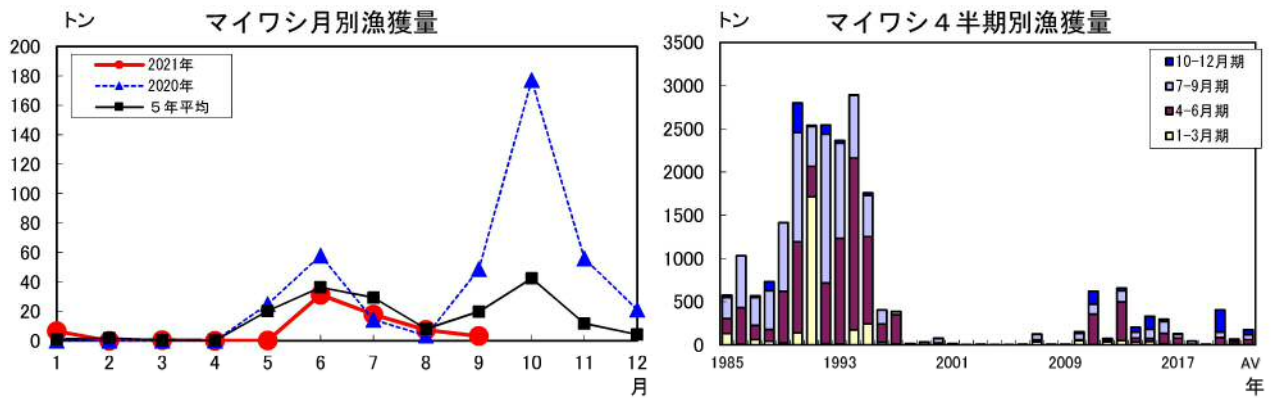


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

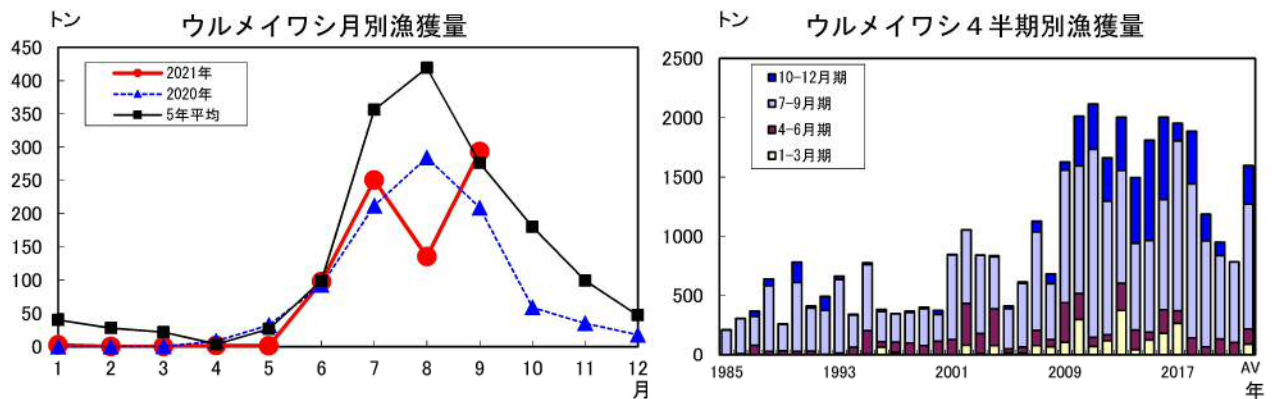


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

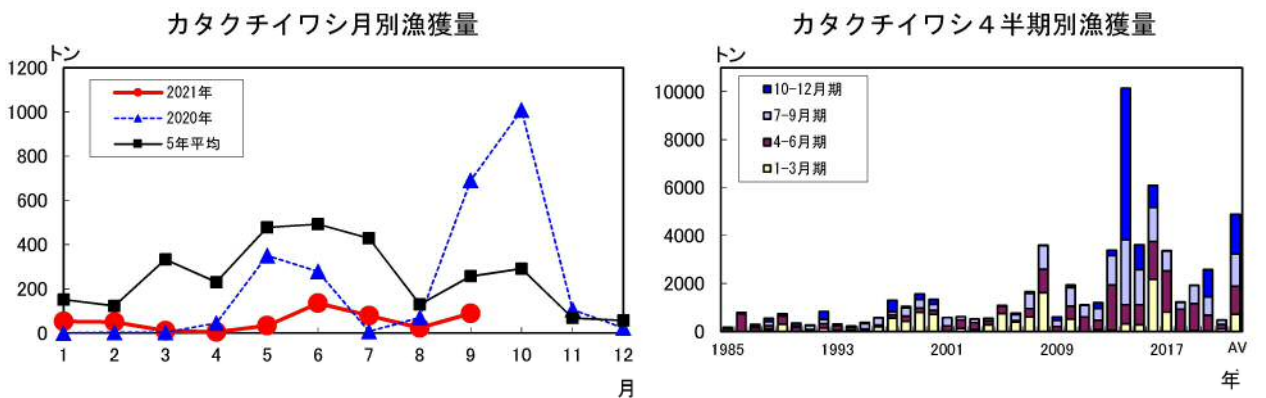


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

※平年値は過去5年の平均値(AV), 2021年9月29日までの水揚量を使用

[ムロアジ類 (参考：漁況経過のみ記載)]

〈クサヤモロ，モロ (水産技術開発センター調べ)〉

【4港計 (阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

1. 経年経過

ムロアジ類の漁獲量は、1990年の21,700トンをピークに急減し、1994年以降は1,500トンから5,000トンの間での推移しており、2020年は2,309トンとなりました。

2. 2021年7～9月の漁況の経過

4港計のまき網では、臥蛇島，島間沖でクサヤモロ小，中小主体の漁場が形成されました。期全体で297トンの水揚げで、前年の104%及び平年の65%でした。

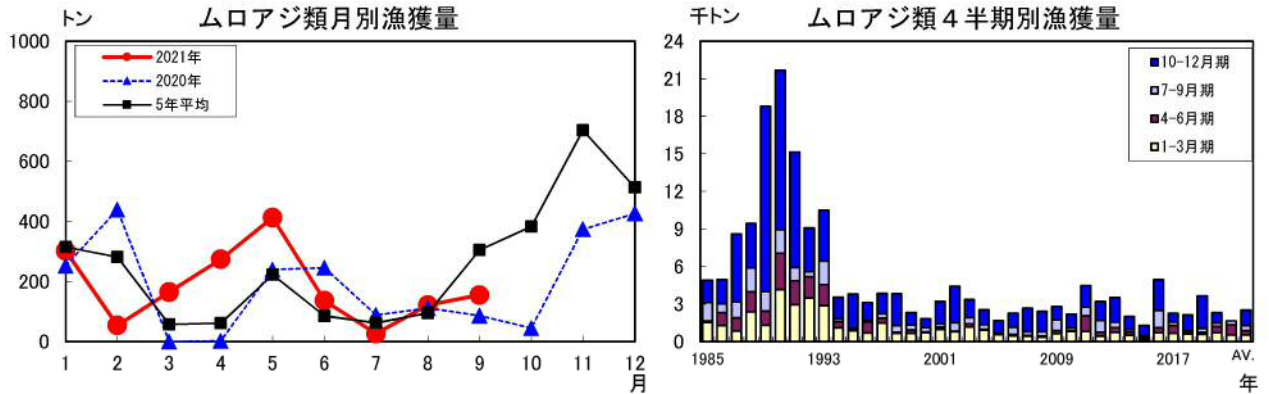


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化 (4港計)

※平年値は過去5年の平均値 (AV)，2021年9月29日までの水揚量を使用

〈オアカムロ (水産技術開発センター調べ：4港計)〉

【4港計 (阿久根；枕崎；山川；内之浦)】

1. 経年経過

オアカムロの漁獲量は、1989年の5,300トンをピークに一旦減少し、1995年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となり、2007年には700トンとなりました。2008年に2,300トンまで増加した後は700～2,400トンの間で推移しており、2020年は1,214トンとなりました。

2. 2021年7～9月の漁況の経過

4港計のまき網では、主に屋久島周辺でオアカムロ中主体の漁場が形成されました。期全体で160トンの水揚げで、前年の89%及び平年の90%でした。

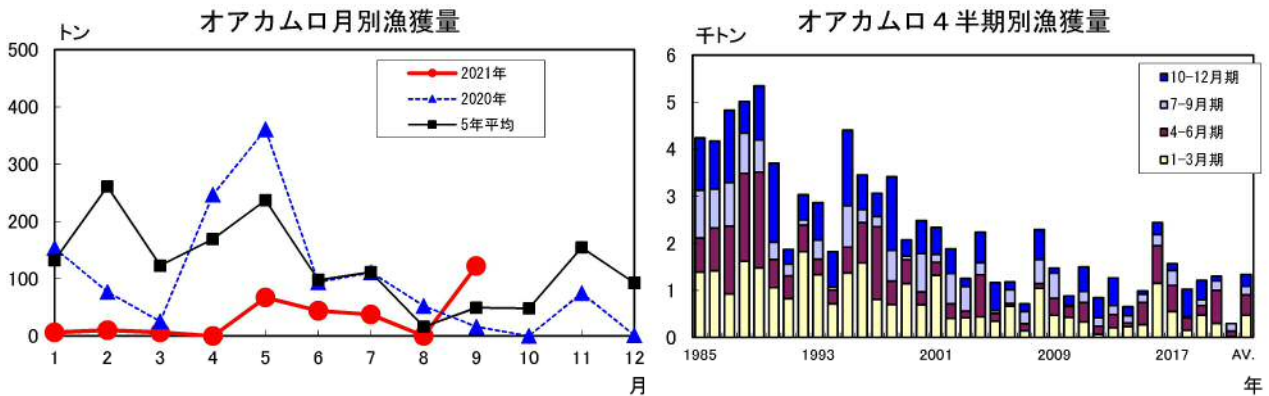


図 オアカムロまき網漁獲量変化 (4港計)

※平年値は過去5年の平均値 (AV)，2021年9月29日までの水揚量を使用

〈マルアジ（アオアジ）（水産技術開発センター調べ：4港計）〉

【4港計（阿久根；枕崎；山川；内之浦）】

1. 経年経過

マルアジの漁獲量は、1987年から1989年に1,500トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、2000年から2003年に再度ピークを迎え2003年には3,150トンと最高を記録しましたが、2004年以降は低調に推移し、令和2年は448トンとなりました。

2. 2021年7～9月の漁況の経過

4港計のまき網では、八代海、串木野沖でマルアジ中、小主体の漁場がわずかに形成されました。期全体で13トンの水揚げで、前年の19%及び平年の21%でした。

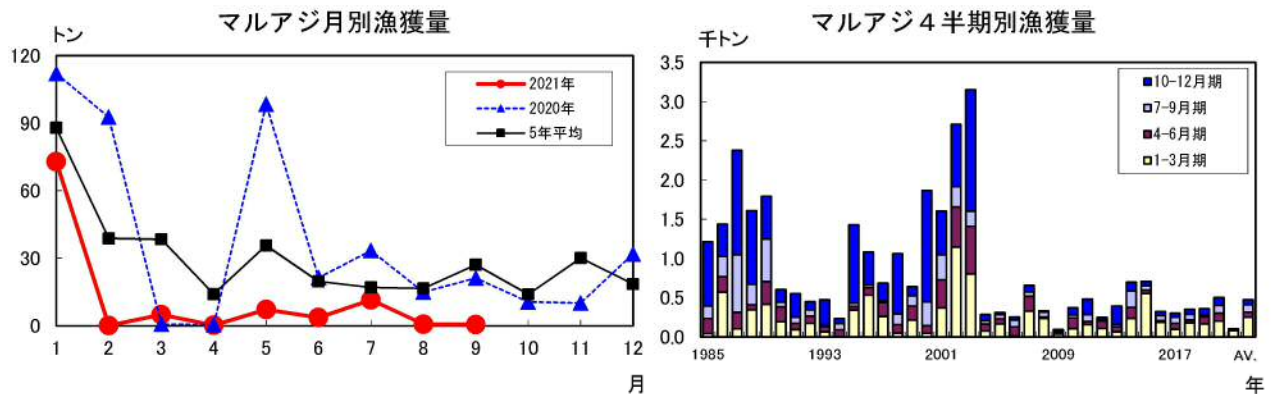


図 マルアジ（アオアジ）まき網漁獲量変化（4港計）

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2021年9月29日までの水揚げ量を使用